



源九郎稲荷神社は、秀吉の弟で、郡山城主だった大和納言・豊臣秀長が、郡山城の鎮守として創建しました。日本三大稲荷の一つに数えられることもあります。

本殿の前には、宝珠をくわえ財宝にご利益があるという狛狐と、巻物をくわえ知恵にご利益があるといわれる狛狐が、参拝する人々を笑顔で見守

つています。「喜常札」と記された御朱印にも巻物をくわえた狐が描かれています。神社名の由来は、歌舞伎や文楽で人気の演目、妖力を得た狐の心に浄化される物語「義経千本桜」に深い関わりがありまして名付けました。



源九郎稲荷神社 (大和郡山市)

(住所) 大和郡山市洞泉寺町15
(祭神) 宇迦之御魂神
源九郎稲荷大明神
(交通) JR郡山駅、近鉄郡山駅か

らいずれも徒歩約10分
(拝観) 午前10時〜午後5時
(駐車場) 無
(電話) 0743・55・3830

「義経千本桜」深い関わり

(奈良まほろばソムリエの会員 藤井哲子)

春の訪れとともに、狐の傍らに植えられた村勘九郎梅と桜が、鮮やかに境内を彩ると、物語を重ねる人も多いのではないのでしょうか。

源平合戦の後、兄・頼朝によって吉野山へ追われた源九郎義経は、そこで忠臣・佐藤忠信に化けた白い狐の神通力によって助けられました。側室の静御前が鼓を打つと狐が現れ、義経は自分の名前を取って、狐に源九郎と名付けました。「大和郡山お城まつり」では主な行事として、「白狐渡御」が行われます。白衣に白狐の面をつけた子どもたちが、白狐ばやしに合せて市街地を練り歩きます。